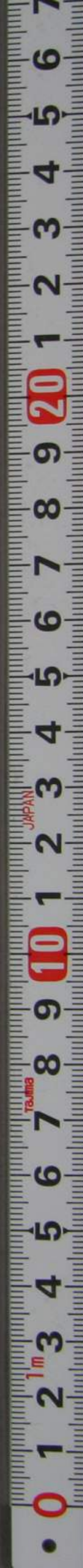


請合附、餘金積立銀行之事

2920



114  
A1179

請合附、餘金積立銀行之事

大正十一年四月  
隈侯爵邸



余數年前橫濱ニ於テ餘金積立銀行ヲ起シレ貧富ノ人之  
貯金ニシテ全ナル一處ニ集積シ其ノ積リ金ヲ善キ抵當ヲ取リ  
再ニ貸渡シ而シテ其ノ利益ヲ毎年金子積立主ニ分配セシメテ  
其ノ金ニ付テハ吾ガ親友ノ日本人等多クハ賞讃シ其ノ美可然ルト言ハ  
レタレドモ他用ノ多キヲ以テ余終ニ之レヲ暫行スルヲ能ワザリシ  
其ノ後ヨーロッパニ於テ余右キ同様ノ企テ廣告シ萬國其立銀行ト号  
スル會社ヲ開キ其會社ハ即チ西和ノ人民貸金ニテ利潤ヲ得ル為  
メニ入社シ能フ者ヲ企テタル如ク歐米ノ國ニテハ大ニ數人ノ金主ヨリ賞

讚承託ヲ得既ニ今年右ノ銀行ヲ開カン目的ヲ以テ許大ノ高ヲ速ニ披  
入ヤレタリ然ル如ク余再ビ日本ニ渡来シテ其ノ景況ヲ見ルニ既ニ国立  
銀行ナル者最多政府ノ扶助ヲ以テ起業ヤレタレバ今暫ク余ノ目途ヲ  
發センコト肝要ナリト知レリ 然レドモ其ノ後余聞入ルニ或ル説ヲ  
以テ皇國ノ人ハ国立銀行ヲ好ム者不多却テ或ル人ハ洋行ノ銀行ヲ  
好ムスル由シ故ニ余先前思慮セシ如キ銀行ヲ起業スルコト尚ホ未ダ  
肝要ニシテ且ツ利益多クルベシ將タ又右ノ如キ銀行ヲ起業スルハ日本政  
府ノ利潤ヲ増シ且ツ其レヲ助ケ且ツ勢カヲ増スニ至ラン  
右ノ説ニ付テハ余其ノ理ヲ次ニ述ブ

第一 日本ノ人民ハ今マ許多ノ人ノ為ス如ク無益ニ餘金ヲ費サ  
ズニテ老衰病氣或ハ饑饉ノ防衛トシテ餘金ヲ貯ヘ置ク様ニナラバ之レ  
即チ善ナリ 家中ニ餘金ヲ貯ヘシメテ貯フルハ何人モ善ニナラズ故ニ  
無益ニ費スヨリモ 纔カ良シト虽モ屢々火災盜難ニ依テ失ハルノ悲ナリ  
然レドモ賤貨ヲ無益ニ費シ或ハ無用ニ貯ヘ置クコト防カンニ是非安全ニ保護  
スル一處ヲ備ズンバアルベカラズ 尚スタ餘金ヲ利産セシムルニ賤本ヲ要スル  
人民ニ貸シ付ケズンバ有ル可ラズ但シ其人ハ抵當品ヲ出シ期限ノ至ル時ハ元利  
共押シ戻ス可キ人物ナリ  
日本國ニ多分ノ餘金アリ若シ其ラ一処ニ集メテ政府或ハ其他商賣  
職業ノ資本ヲ要スル人民ノ為メニ要用ナル若大ノ高ヲ成スト必然ナルハ何  
人モ不疑ル處ナリ

外國ニ於テスル如キ賦貸ハ餘金積立會社ニ集備セリ 即チ米國之  
カリホルニヤ州ハ東京一都府ノ住民ヨリ總人口不多ト虽モ既ニ彼ノ  
千百七十二年ニ餘金積立會社ニ預リタル金高五千萬金ニ及ビリ又タ合  
衆國ノ全州ニテハ同年ニ右ノ同様ノ預ケ高ハ六億ドルラレ余ニ至リ  
是レ等ノ大金ト虽モ大概ハ識人共ヨリ集メラレタル者ナリ  
右ノ如キ餘金積立會社ノ便宜ヨリ豐富ノ大河モ小源ノ郡集ヨリ溢  
流スル如ク若シ是ノ大河ヲクシバ恐ニ流レテ無益ニ失ハル、ナラン尚ホ廣々  
タル富饒ノ地ノ生シタルモ右ナクシバ只荒々タル地ニ止マリタル已ナラシ  
將又餘金積立會社ニ賦貸ヲ預クル人ハ善キ割合ヲ以テ利子ヲ得現  
今未來ノ安全ヲ得ルノミナリ

都而右之如キ幸ナル成果ヲ生ゼントスルハ只銀行中ノ取扱ノ正賢ニ依ル已  
ナリ其ノ取扱ノ正賢ハ銀行中ノ正規善律ニ依テ自由ナリ

第二 右ノ銀行ハ饑饉其ノ外ノ時ニ用立ツ外ニ尚又肝要ナル一事ナリ

是レ即チ貸金ニ金ヲ用ニ為ニ銀行ニ預クル人ハ直ニ平和靜謐ノ親友

トナリ而シテ働亂ノ生スル時ハ右ノ銀行ヲ害セシテ恐レテ一擡騷動等ヲ  
好マズ是レ即チ他ノ善ヲナリ

第三 右ノ如キ銀行ハ一度ニ充分ニ起立致サル、時ハ速ニ盛大ニ至リ

而シテ也間ニ其ノ銀行ノ信用ヲ受クル時ハ大ナル入金ヲ得且ツ勢力  
ヲ得ルニ至ラン即チ五米利加國ノ餘金積立會社ノ多クハ常ニ千万串  
或ハ二千万串位モ保持スルナリ 是ノ大金ノ多分ハ概畧政府ニテ借用シ之

レニ替フルニ利益有、國債證書ヲ付テス

第四 右キニ企起セシテ欲スル銀行ハ日本人ニ屬シ皇國ノ法律ニ從テ開  
カル、者ナレバ其使用ナルハ常ニ政府ノ利潤トナリ今ク外國人ニ已ニ屬  
スル商賈屋ハ時トシテハ日本ノ政府ヲ扶助シ或ハ使用セニテラ 嫌フテ了  
リト虽モ之レ等ノ手ヲ今ク離レ大ニ便利ヲ得ルニ至シ

第五 又タ右ノ銀行ノ行業ハウオルスホル社中ニテ差配シ其ノ抵當物  
モ亦ト同社ニテ請合ハル、故ニ歐米ニアル石目社ノ友人等ハ是ノ銀行ヲ扶  
助スルニ相違ナカルベシ然ル時ハ若シ政府ニ於テ外國ニ貸金ニテラ商儀シ  
或ハ外國ニ他ノテラ為ラントスル時ハ是ノ銀行ハ亦ニ所要ナル者トニテ採用  
サルベシ 右ノ如クシテ設クル口銭ハ毎年金子額々主ニ分配スル利益ヲ増ス

巴ナリ

第六 是ノ銀行ノ職業ニ於ル一部ハ地處家屋抵當ニテ貸金スルテラ  
以テ左スレバ是ノ銀行ニテハ迨々地處ノ價ノ騰貴スマキ秀逸ナル者ヲ精々  
撰ム故ニ隨テ堅良ノ家屋ヲ建テ地ノ耕作ヲ勉厲スルヲ導クナリ且ツ又  
住處ノ模様田畠ノ出產都市市街ノ改正ヲ進歩セシムル善事ニ於テ  
政府ヲ助クル一端トモナラン

第七 是ノ餘金積立銀行ニテハ紙幣手形ヲ發行致サズ故ニ方今  
存在スル日本ノ國立銀行ヲ害スル患無ルベシ

○ 右等ハ何致ニ政府ニテ是ノ起業セシテ欲スル請合附、餘金積立銀行

但シヨナルホト社中ニテ是、銀行ノ損益等ヲ監督シ若シ損失等ノ出ル時ハラ扶  
右ノ社中ニテ是ヲ償フ故ニ是、銀行ヲ請合附ノ餘金積立銀行ト号ス  
助アツテ可ナラシカヲ 論ニタル 理ノ一部ナリ

若シ政府ニ於テ是、銀行ヲ發端ヨリ公務ニ由採用アリ其レニ依テ是、銀  
行ハ肝要ナル且其信用スベキ者タルヲ人民ニ感知セシムル操ニ至リハ斯  
ノ如キ銀行ニ最上ノ利益ト云フベシ尚ホ又タ是、銀行ハ之レ迄日本ノ政府  
并ニ其ノ人民ニ懇切ナルヲ頭ニタル外館ノ差配并ニ請合ヲ受クルト  
ハ故障無カラシヲ企望ス然レドモ右等ヲ受クルハ耗力増ス附添ノ一理  
タラナラ

次者ニ依リテハ是、餘金積立銀行ノ規律并ニ其ノ職業ノ定律ヲ定ムル  
必要ナラシ然リトモ右等ノ規律定律ハ最モ容易ニ成就致ケル者ナリ

